8月18（火曜日）「イエス（5）誘惑に会う」

【新改訳 2017】

ルカ　4•1－13

「さて、御霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれて荒野におり、四十日間、悪魔の試みに会われた。その間何も食べず、その時が終わると、空腹を覚えられた。」（1、2 節）

洗礼を受け、御霊に満たされたイエスは荒野に出て行かれました。そのことは、御霊の導きでしたので、父なる神のご計画であったと思われます。しかし、そこで悪魔の誘惑を受けられました。ここにおける霊的な戦いと勝利は、イエスご自身にも、後の信仰者にも重大な意味があるものでした。

悪魔の誘惑は、実に巧妙です。これからの公の宣教活動を妨害するようにやって来ました。そして、空腹の時にパンの話をしては弱みにつけ込み、聖書のことばをもっともらしく用いて、違うことを試させようとしました。最後は神から離れさせ、信仰につまずかせ、サタン礼拝に向かうようにさせました。

私たちも本当に気をつけねばなりません。誘惑を見抜ける

ように祈りましょう。（Ⅰヨハネ 4.1-3 参照）

～祈り～

主よ。私たちは誘惑に弱い者です。どうか、サタンの巧妙な誘惑を見抜く霊性と、御霊によってそれに勝つ信仰、知恵を与えてください。

【学びのために】

主イエスが受けられた誘惑には意味があります。

①人となられた御子としても、サタンに負けることはないことの証明。

②信じる人間の苦悩や心情を体得されること。

③そして、主を信じる者たちに、保証と模範を示すことが考えられます。